

高次都市機能施設の拠点間補完性 —低次拠点における都市機能取捨選択に関する基礎的分析—

令和5年2月 田中 輝

要旨

目的

我が国では人口減少が進んでいるが、その傾向は地方部で顕著にみられる。この状況下において高次な都市機能を有する施設を維持していくため、施設を集積させる拠点で広域的に分担させ、その施設の利用人口を確保する必要性が指摘されている。そこで本研究では、施設立地以外の拠点の特徴と拠点内およびその近接する周辺の拠点における施設立地の傾向を把握することで、施設の取捨選択を検討する際の一助となることを目的とする。

方法

都市圏内で相対的に低次な拠点において、拠点の特徴ごとに施設の立地傾向を分析する。コンパクト+ネットワーク型都市構造を検討するうえで拠点の特徴を表す指標を説明変数として設定し、主成分分析およびクラスター分析を用いて拠点の類型化を行った。拠点類型ごとに拠点内および近接拠点到立地する傾向にある施設を、立地割合を算出することにより明らかにし、施設立地の傾向と施設の取捨選択の可能性について検討を行った。

結論

立地割合を算出して施設の立地傾向について分析した結果、拠点類型ごとに施設の立地割合に差があることが明らかになった。特に高次拠点や近接している拠点との距離が短い拠点類型ほど施設の立地割合が小さい傾向にある。このような拠点では、ショッピングセンターや文化ホールは高次拠点の利用に依存し、選択的に都市機能を諦める施設に該当すると考えられる。一方、近接する拠点間の距離が長い拠点類型では、一部の施設を除いて平均以上の立地割合となった。この類型では拠点間の施設の分担が難しい場合があり、今後の人口の確保および都市機能の維持が課題である類型と考えられる。拠点類型ごとに施設が立地する傾向が違う中で、すべての拠点で施設の立地、誘導の計画を一律で進めていくことは適切ではない。場合によっては施設の立地を諦めることで、都市機能を拠点間で補完しあい、広域的に都市機能施設を維持していくことができる可能性が確認された。

指導教員 森本 瑛士 助教